



平成29年4月17日号(No.174)

## 「 アイメッセージ 」

伊丹市立総合教育センター

所長 後藤 猛虎

いよいよ新学期が始まりました。教師にとっては、この数週間から1ヶ月ぐらいが勝負です。1年間、子どもたちとうまくいくかが、この時期でほぼ決まると言っても過言ではありません。忙しい時期ですが、心して子どもたちと接してほしいものです。

さて、教師をしていると子どもたちに注意や指導をする場面がたくさんあります。そんな場面の中に、注意しても、子どもたちが同じ過ちを繰り返すものがあります。

その最たるものが忘れ物です。忘れ物をして、まずいとか、困ったとか、恥ずかしいという気持ちにならない子が増えてきているようです。それは、いつも先生や友達が貸してくれることや、忘れ物が当たり前になるとまわりの目が気にならなくなることで、困ったり、焦ったりする気持ちがだんだん薄らいでくるのが原因のようです。忘れ物が常習化すると授業への意欲が低下し、学びからの逃避が始まります。できる限り早い段階で手を打たなければなりません。

では、忘れ物を繰り返す子にどのような言葉がけをすればよいのでしょうか。「そんなに忘れ物ばかりすると授業がわからなくなるのは、あなたよ！」「あなたは毎回忘れ物して恥ずかしくないの？」では、困ったり、焦ったりしない子には教師の気持ちは伝わりにくいようです。このような時、相手を責めず効果的に気持ちを伝える方法が「アイメッセージ」です。これは、臨床心理学者のトマス・ゴードン博士が提唱したコミュニケーションの方法です。具体的には、「授業に必要なあなたの道具が揃っていないと、私は十分な授業ができなくなって困るんだ」「あなたが忘れ物をしていると、私は授業がわかりにくいのではないかと気になって仕方がないのよ」などです。「あなたは～だ」とあなたを主語にするのではなく、私を主語にして、私の立場や気持ちを伝えるのです。そのことが、相手を批判せず、相手の心を動かす動機づけにつながるのです。そのため、アイメッセージを使う時は、「授業に必要なあなたの道具が揃っていないと（問題行動）、私は十分な授業ができなくなって（影響）、困るんだ（感情）」と問題行動、自分への影響、感情の3つを具体的に入れて話すことが大切です。

また、これは相手の良いところに気づいた時にも、承認や意欲を増す言葉がけとして使えます。例えば、「あなたが忘れ物をしなかったので、気持ちよく授業をすることができてうれしい」です。4月は、子どもたちとの大切な出会いの月です。子どもたちへの接し方、教師の言動は、これからの学級経営や授業に大きな影響を与えます。大事なことは、その時々子ども心に響く言葉がけを心がけることだと思います。



# よりよい学級経営を目指して

4月は学級づくりにとって、最も大切な時期です。子ども達が出会い、一年間のスタートを切るこの時期に、しっかりと先を見据えた学級経営をすることが、今後にとって非常に大切なこととなります。「一人一人が安心してすごすことができる」そんな学級をつくり、よりよい一年間を過ごしましょう。



## 学習規律

基本的な学習ルールの定着を図る



落ち着いた雰囲気の中で集中して学習するためには、学びの基盤となる学習規律を児童生徒に身に付けさせることが大切です。

### ルールづくり

- ◆ 話し合いを通して、**子ども主体**で学級のルールを作ります。
- ◆ 機を見てルールを**ふり返り**、自分たちの行動を見直すことが大切です。

### 全体へ問う

- ◆ ルールを守らないような発言などに対しては、**学級に問うてみて、全員で考える**ことが大切です。
- ◆ 全体へつなぐことで、一人の学びは全体に広がり、徐々に**話を聞き合う雰囲気**が生まれます。

### ぶれない指導

- ◆ 学級で決めたルールについては、**ぶれない指導**をすることが大切です。
- ◆ ルールを守れない子どもに対しては見逃さず指導することが大切です。**指導のぶれは学級崩壊の第一歩**です。

## 学級づくり

安心して学習したり、生活したりできる場をつくる

一人一人が生き生きと学習や生活に取り組むことのできる学級経営をし、子どもたちが安心して毎日をすごすことができる集団をつくるのが大切です。

### 支え合う学級に

- ◆ **お互いに認め合える(尊重し合える)関係**がある学級を作りましょう。
- ◆ **お互いに何でも言い合え、温かい(肯定的な)言葉**がけができる学級を作りましょう。

### みとめるとしかる

- ◆ **一人一人のよさやがんばりは、具体的にみんなの前でほめて、認めてあげる**ようにしましょう。学級通信などを通して、**全体で共有**することで、よい行いを広めましょう。
- ◆ 時には子どもを**しかる**ことも大切です。これだけは**絶対にゆるされないというもの**について、以下のような約束事をしておきましょう。
  - **命にかかわるようなこと**をしたとき
  - **人の気持ちを傷つける**など、人権を無視するようなことをしたとき

## 教師の基本

信頼される教師であるために



教育は「信頼関係」で成り立っています。教師は子どもや保護者・地域の人々から信頼されることが大切です。

### どんな子どもを育てるか

- ◆ **めざす子どもの姿**を明確に持って子どもと接することが大切です。**信念**を持って教育に取り組みましょう。
- ◆ 自分の信念を**学級や懇談会等で発信**し、子どもや保護者に伝えるようにしましょう。

### 共にある

- ◆ 子どもと共に汗を流して**活動し**、たくさん会話をしましょう。子どもの世界に飛び込むことが大切です。
- ◆ PTAや地域の**行事に積極的に参加**しましょう。相手を理解する姿勢を示すことが大切です。

### 誠実に

- ◆ 誠実に、**真摯な態度**で子どもや保護者・地域の人々の話を**共感的に聞き**、対応しましょう。ごまかしや嘘は信頼を大きく損ねます。
- ◆ 学校は保護者や地域の人々に支えられています。感謝の気持ちを**目に見える形で伝え**ましょう。

## 環境づくり

美しく整えられた教室環境をつくる



教室は学びの場であり、美しく整えられた教室環境は学びの質を高めます。教室は学級を映す鏡であると意識して、いつも美しく整えられた教室環境を作ることができるようになります。

### 美しい教室

- ◆ 常に美しい学級にしましょう。そのために、**子ども達と一緒に清掃**することが大切です。
- ◆ 子ども達の下校後、教室の環境を整えましょう。**小さな変化に気づき**かけにもなります。

### 明るい教室

- ◆ **子どもの作品や写真**を掲示するなど、目に見える形で居場所があることを伝え、支持的風土のある教室を作りましょう。
- ◆ 学習や行事で、**学級全体でがんばったこと**がわかるような掲示の工夫をしましょう。学級への帰属意識が育まれます。

### 安全な教室

- ◆ **けがや事故のない教室**であるように危険箇所はしっかりチェックしましょう。
  - **窓際に机や台はないか。**
  - **カッター**などを教師机の上に放置していないか。
  - **テレビ等**はしっかり固定されているか。
  - **釘**がでている箇所はないか。 など

# 平成29年伊丹市議会(3月定例会)における質問

平成29年伊丹市議会（3月定例会）で「自ら学び自ら考える力を育む教育」の質問趣旨及び伊丹市教育委員会の答弁を抜粋、要約して紹介します。

## 【質問趣旨】

「自ら学び自ら考える力を育む教育」はどのように推進するのか

## 【答弁内容抜粋】（教育長答弁）（前略）

子どもたちが生きていく21世紀社会は、知識基盤社会であり、近年、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきています。

このような予測困難な時代においては、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合い関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、「よりよい人生」と「よりよい社会」の創り手となっていくことが重要であると考えます。

そのためには、「自ら学び自ら考える力」を確実に培うことのできる学校教育を実現していかなければなりません。よって、平成29年度は、新たな視点を加味した「カリキュラム・マネジメント」の実現と、アクティブ・ラーニングの視点に立った「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んでまいります。

まず1つめの、新たな視点を加味した「カリキュラム・マネジメント」の実現についてですが、「カリキュラム・マネジメント」とは、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき、教育課程を編成し、実施・評価していくことです。

その従来の視点に、新たに2つの視点を加えた「カリキュラム・マネジメント」の実現に取り組んでまいります。1つは、各教科等の教育内容を相互の関連で捉え、学校教育目標を踏まえた「教科横断的な視点」でその目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列してまいります。（中略）2つめは、教育内容と教育活動に地域等の外部の人的・物的資源を有効に組み合わせてまいります。

次に、大きな2つめが、アクティブ・ラーニングの視点に立った「主体的・対話的で深い学び」を実現することです。子どもたちが学習内容を、人生や社会の在り方と結びつけて理解し、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、「どのように学ぶのか」といった学びの質が重要になってまいります。（中略）

こうした「主体的・対話的で深い学び」を実現するための手段が「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業です。日々の授業において、一人ひとりの子どもたちが主体的に「調べる」、「考える」、「書く」、「発表する」といった学習活動を通して、また、効果的な情報機器の導入を図ることにより、学びへの「意欲」や「興味・関心」、学ぶことの「楽しさ」を育ててまいります。（中略）

もう1つは、家庭の理解と協力を得て、自主学習ノートと復習などの「家庭学習」の充実を図ってまいりたいと考えております。特に「自主学習ノート」については、自ら課題を設定して行うことから主体的に学ぶ姿勢が培われます。（中略）

以上、述べました3点の視点から、子どもたちの「自ら学び自ら考える力」を育ててまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

